

■白山麓地区の森林整備の方針

(1) 現状と課題

- ・ 白山麓地域の森林面積は、63千haあまりで、県内森林の約22%を占めており、そのうち約3分の1(21千ha)が国有林
- ・ 民有林面積は、約42千haで、大部分が手取川上流域の重要な水源林となっており、保安林率は43%と県内最高
- ・ 区域の森林は、白山国立公園に代表されるようにブナ、ミズナラ等の天然広葉樹林が多く、スギなどの人工林は、8千haで人工林率約19%と県平均の39%に比べ遙かに低い
- ・ また、全国有数の豪雪地帯でもあるため、スギ等の人工林では根曲がりや成長不良な林分も多い
- ・ 山村の過疎化、高齢化や森林所有者の不在村化に伴い、管理されない森林が多く、野生獣害による被害森林も多く見られる

(2) 対策の方向

- ① 資源として充実してきた人工林に対する森林施業の集約化を進め、効率的な利用間伐を推進する
- ② 県民の水がめとして、特に水源かん養機能の維持・向上や土砂流出防止を重視した森林整備と山地災の害防、復旧に努める
- ③ 山村集落周辺の森林整備を通じたバッファゾーンの設置など野生鳥獣による森林被害対策を推進する

(3) 具体的な対策方針

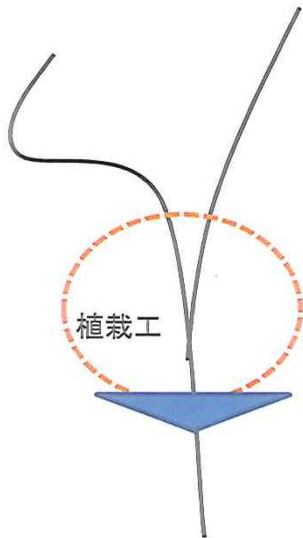
- ① 施業の集約化による効率的な搬出間伐の推進
 - ・ 人工林率が低い当該地域では、森林組合や林業事業者がバラバラに森林経営計画を策定しても1施業地の集約面積が小さく、低コストで効率的な搬出間伐ができないので、事業者が協力して共同で大きな面積の経営計画を策定し、路網の整備や高性能林業機械の搬入などを共同で行うことにより効率的な森林施業の推進に努めてほしい
- ② 森林整備と一体で進める治山事業
 - ・ 荒廃溪流の復旧や周辺の保安林等の森林整備について、治山施設と森林整備を一体として整備することとし、流域内の荒廃状況や劣悪な森林等について、現地に詳しい森林組合や林業事業者と協議しながら地区指定事業も含め治山事業を推進する

[治山事業のイメージ]

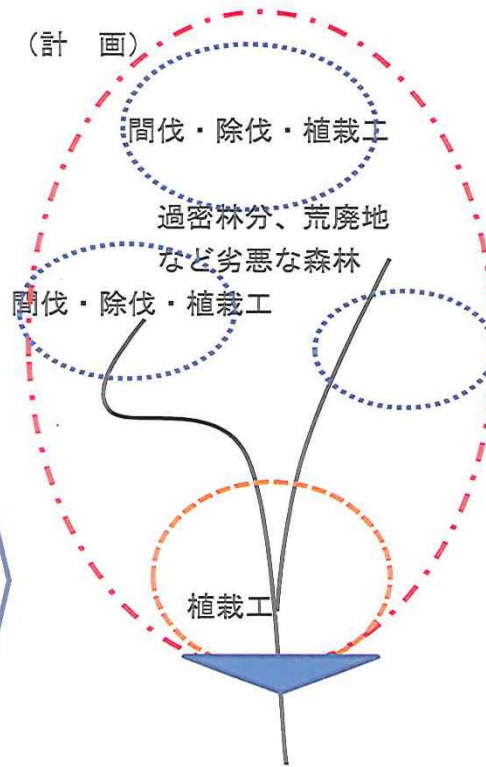
○流域ごとの復旧対策

(これまで)

治山施設と一体となった荒廃地に
植栽工等を実施



(計 画)



○広域の流域を対象とした治山事業（地区もの）を検討

＜実績＞	水源地域対策	白峰地区	S62～H 7	6,938ha
		大道谷地区	H 8～H14	8,094ha
		奥池地区	H18～H22	292ha

③ 地域の活動組織と取り組む里山林整備

～森林・山村の多面的機能発揮対策事業（H25新規）～

- ・地域住民が森林所有者、林業事業者等との合意により設置する活動組織による集落周辺での鳥獣被害防止のための過密化した里山林、荒廃竹林等の整備を推進する
- ・県営林、公社造林、一般造林地において今年度、新たにネット巻き等に対する助成を拡大し、クマの皮はぎ防止対策等に積極的に取り組む